

八戸港の災害復旧状況について

三八県土整備事務所 八戸港管理所

八戸港管理所では、令和7年12月8日の青森県東方沖地震で被害のあった港湾施設について、工事の復旧状況を定期的に紹介します。



地震の概要

令和7年12月8日23時15分ごろに発生した青森県東方沖地震は、マグニチュード7.5、震源の深さ約55km、青森県八戸市で最大震度6強の揺れを観測したほか、北海道から近畿地方にかけて震度6弱～1の揺れを観測しました。また、大平洋沿岸では津波警報が発令され、最大で70cm程度の津波も観測されました。

八戸港の被害概要

八戸港に近い観測所は2箇所あり、八戸市港町では震度5強の揺れを、八戸市内では震度6弱の揺れを観測しました。

この地震による被害の特徴として、一部の港湾施設で液状化が発生し、段差や沈下による被害が発生しました。

液状化による被害箇所は、

- ・八太郎2号埠頭 国際コンテナターミナル（拡張部）
- ・河原木1号埠頭 B岸壁エプロン
- ・臨港道路 河原木1号埠頭3号線
- ・フェリーターミナル（所管：青森県フェリー埠頭公社）

の4箇所となっております。

このほかにも、岸壁や臨港道路、緑地帯の舗装などで、ひび割れや段差などの被害が発生しました。

主要港湾施設の復旧状況

国際コンテナターミナル（拡張部）

平成30年に完成したコンテナターミナル拡張部（約18,000㎡）において、地震による液状化の発生、その影響で舗装面の沈下及び一部のケーソンに移動が生じました。

現在、以下の復旧方針で進めています。

- ・沈下、破損した舗装は原形復旧とし全面補修を行う。
- ・移動したケーソンは背後土圧を軽減するなどして液状化の土圧に対し安定化を図る。
- ・荷役に影響がないよう復旧工事を進める。

また、7月頃から10月末頃までに舗装を撤去し、その後、ケーソン背後の改良工事、及び段差解消に順次着手していきます。

令和8年6月1日 現場の状況（未着手）



7月から着手予定

- ・既存舗装の撤去
- ・外周道路（写真のAs舗装）の仮復旧
- ・仮ヤードの設置（仮のコンテナ置場のため、一部分を舗装）

八太郎1号埠頭E岸壁野積場

地震による沈下及び舗装のひび割れが発生。応急復旧により、荷役は正常に行われていましたが、今年4月に舗装の陥没が発生し、過去に使用していた荷役機械の基礎コンクリートの下に空洞が発生していたことから、基礎コンクリートの撤去が必要となっています。この工事は、国と県で復旧する工事となっています。



被災時の状況



令和8年6月1日 現場の状況（仮復旧後）



7月頃から現場着手予定

八太郎4号埠頭P岸壁野積場

地震により沈下及び舗装のひび割れが発生。応急復旧により、荷役は正常に行われています。本復旧の工事にあたっても、RORO船等の荷役に影響がないよう進める必要があります。この工事は、国と県で復旧する工事となっています。



被災時の状況



令和8年6月1日 現場の状況（仮復旧後）



7月頃から現場着手予定

八太郎3号埠頭 八太郎N岸壁エプロン

※エプロン：岸壁の端部（海との境）から20mの幅の範囲

八太郎N岸壁は地震によりエプロン部に段差が発生しました。4月1日から国の補助金を受けて復旧工事に着手しています。



被災時の状況



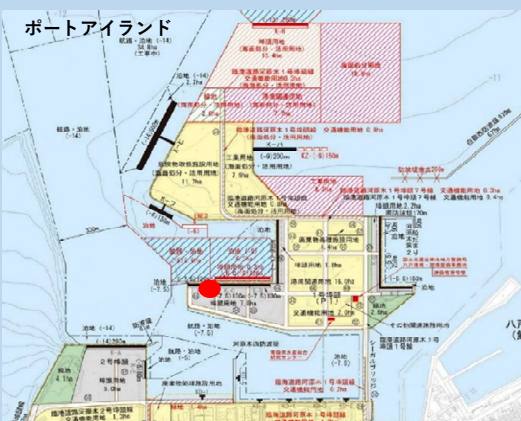
令和8年6月1日 現場の状況



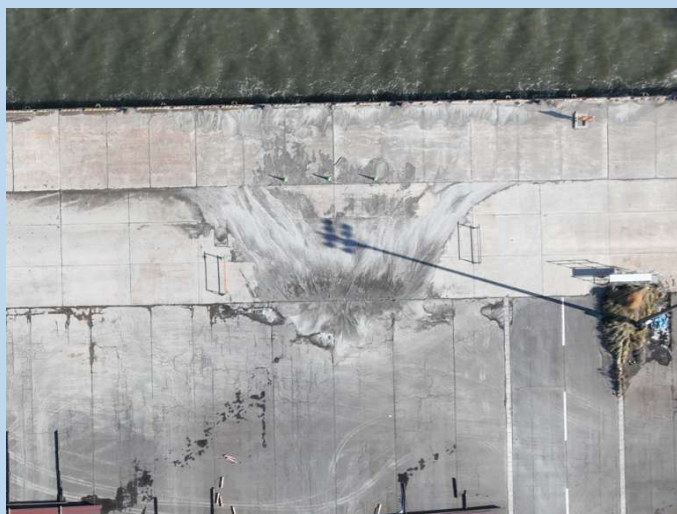
破損した既存コンクリート舗装の撤去が完了し、コンクリート舗装の原形復旧をこれから施工していきます。

河原木 1号埠頭B岸壁エプロン

地震によって液状化が発生し、土砂が噴砂しました。その影響でコンクリート舗装が持ち上がったため、舗装の下に空洞が生じ、舗装目地部に段差が発生しました。4月1日から国の補助金を受けて復旧工事に着手しています。



被災時の状況



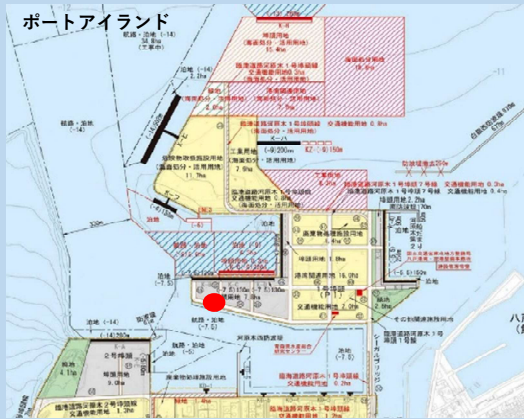
令和8年6月1日 現場の状況



これから、舗装の撤去に着手します。

臨港道路 河原木1号埠頭3号線

地震によって液状化が発生し、土砂が噴砂しました。その影響で道路の舗装と側溝が持ち上がり、段差が生じました。舗装をもとの状態に戻すため、4月1日から国の補助金を受けて復旧工事に着手しています。



被災時の状況



令和8年5月29日 現場の状況



既設舗装、既設側溝の撤去 → 完了
側溝の復旧 → 工事中（現在）
舗装の復旧 → 未着手（6月中予定）